

山梨県流通センターニュース

編集・発行 協同組合山梨県流通センター（中央市山之神流通団地2-6-1）
TEL (055) 273-4711 FAX (055) 273-4713

過労防いで元気に働こう

荒井 井
講 師

「流通業を対象とした働き方改革」講演



定例懇談会が2月20日（月）に流通会館大会議室で開かれ、組合員・準組合員39人が参加した。

講師に山梨労働局 雇用環境・均等室 荒井直子氏を招き「流通業を対象とした働き方改革」というテーマで講演していただいた。

長時間労働の心身に与える影響による、痛ましい過労死を抑制しようと、国は、厚生労働大臣を本部長とする「長時間労働削減推進本部」を平成26年9月30日に設置し、各都道府県労働局にも労働局長を本部長とする「働き方改革推進本部」が設置され、山梨においても「働き方」の見直しに向けた取り組みが進められている。

「働き方」の見直しは、長時間労働削減、年次有給休暇取得促進、非正規雇用労働者の正社員化、女性の活躍推進、ワーク・ライフ・バランス、イクメン企業の推進等であり、一億総活躍社会実現とも符合している。

「働き方」の見直しに向けた各取り組みのメニューは多種多様であり、県内企業の取り組み事例（独自の休暇制度など）も紹介された。

また、働き方・休み方改善指標（企業の人事労務担当者が労働時間や休暇取得の実態や、これに関連する自社の取り組みや制度を再確認するための指標）の活用方法の紹介があり、ポジションマップにより自社の働き方や休み方に関する問題の有無が分かり、レーダーチャートにより働き方や休み方に関する実態や課題が分析できるものが示された。

その中で、当組合の多くの組合員に当てはまる卸売業の取り組み事例があり、改善箇所と対応策についての説明もあった。

「働き方改革」は待ったなしの喫緊の課題であるためか、組合員は皆真剣に聴き入っていた。

続いて、顧問社会保険労務士の雨宮隆浩氏から、「労働関係法令の改正等について」の研修があり、労働契約法の「無期転換ルール」等についての説明があった。

仕事と治療の両立が重要

許山 美和
センター長

「がんと生きるために」講演

昨年9月13日に開かれた定例懇談会は、山梨県立中央病院がんセンター局緩和ケアセンターセンター長 許山美和氏を招き、「がんと生きるために」をテーマに講演していただいた。「これからはがんと生きていく時代であり、働く世代のがん罹患数が全体の約半数を占める現在、仕事と治療の両立が非常に重要となってくる。がんになって仕事を退職した人が2割いる中で、仕事を続けたいと考える人が8割もいる」と述べられた後「仕事は家計を維持するため、治療費を賄うためだけでなく、生きがいなのだ。

就労可能ながん患者やがん経験者が復帰や働き続けることが出来るよう、職場におけるがん患者等への理解の促進が必要だ」と結ばれた。



安全・安心な街づくり誓い合う

1月6日、組合新年互礼会開く

栗山
理事 長

組合員と更なる結束呼びかける



山梨県流通センター新年互礼会は、平成29年1月6日（金）流通センター第2展示場で開かれ、組合員・来賓合わせて70人が出席した。

冒頭、栗山理事長は昨年の取り組みに触れ、「当組合は組合員企業が安心して事業活動ができる安全・安心な街、企業活動に最適な街づくりを目標に掲げ運営を行った。組合の現状として①長年の懸案だった下水道施設が中央市に全面移管となり問題が解決できた②組合施設の老朽化が著しいインフラ整備の更新を行った（長期修繕計画の街路灯は今年度までに改修工事が終了する）③組合会館をはじめとする

建物の本格的な修繕・建て替えをせざるを得ない状況下である（この問題については未来検討特別委員会で検討協議を行っている）④BCPマニュアルを専門家の指導のもと作成しており、今までよりさらに補充・拡充ができる」と述べた。そして今後さらに発展すべく組合員の理解と協力を求め、更なる結束を呼びかけた。

来賓として、後藤知事、中央市の田中市長、中小企業団体中央会の細田副会長から祝辞をいただいた。祝辞に続いて栗山理事長、来賓11人による鏡開きが行われ、参加者全員で新年を祝い合った。

125人が参加、友好深め合う

第6回
社員交流会

おいしいスイーツと食事楽しむ



第6回社員交流会（大木賢太郎運営委員長）が12月9日（金）、流通会館第1・2展示場で開かれ、125人が参加した。

今回は、県内の有名洋菓子店から800個を超えるスイーツと、(株)富士メディカルサービスの美味しい食事を用意した。おいしそうなスイーツと料理は大人気で、「おいしくて大満足!!」との声が多く聞かれた。

LoMAの会と運営委員が企画したイベント「ロシアンルーレット」「お絵かき対決」「抽選会」は、社員同士の会話のきっかけになり楽しんでいただくことができた。特にロシアンルーレットでは、大量のカラシ入りのシュークリームを食べて悶絶する方々を尻目に、会場は大盛り上がりとなった。

今後も新しい企画を取り入れながら、皆が楽しむ

イベントを行っていききたい。

運営委員及び景品提供にご協力いただいた企業

(株)アドヴォネクト／(株)イイダ／(株)オオキ／(株)栗山商店／(株)ケーアイ／
甲信商事(株)／甲信食糧(株)／(株)サンテミリオン／CIH(株)／(株)システムイン
ナカゴミ／(株)正直堂／(株)高柳繊維／(株)日医工山梨／(株)羽中田自動車工業／
BE・ナショナル(株)／(株)富士メディカルサービス／(株)文祥堂オフィスファ
シリティーズ／マコト医科精機(株)／(株)丸米／(株)マルモ／(有)宮田倉庫／
山崎製パン(株)／(株)山梨中央銀行／ワイエムカンパニー(株)／(株)渡辺商店



おいしいスイーツに舌鼓を打つ参加者たち

BCPマニュアル身につけよう

巨大地震に備える 6月に説明会を予定

平成23年3月11日に起きた東日本大震災から6年が経過し、災害の記憶も薄れていく中、東海地震は、駿河湾から静岡県の内陸部を震源域とするマグニチュード8クラスの巨大地震で、その発生が予測されており、流通センターの組合・組合員もいつ発生するか分からない災害に備えて準備を行う必要に迫られている。

当組合は、優れた立地環境を守り、山梨県流通センターとしての価値を更に高めることを目標に、今まで、安全・安心な組合を標榜して幾つかの施策を実施している。

その施策に、「安否確認サービス」の導入、「災害緊急時に備えるガソリンの備蓄」、トラクターミナル協同組合との燃料給油契約を締結し「災害緊急時に備える軽油の備蓄」、「いざ火災」という時に被害を最小限にとどめるための「防災訓練」などを行ってきた。

しかし、組合員の緊急時に備えた取り組みにもばらつきがあり、認識が薄らいでいるため、平成28年度事業計画においてBCPマニュアルの策定を重点施策の1つとして計画した。

BCPマニュアルの策定に当たっては、公益財団法人やまなし産業支援機構の中小企業支援基盤整備事業（専門家派遣事業）の助成金を利用して労働安全コンサルタントの荻原正宏氏にマニュアル等の策定支援を依頼し、約1年にわたって事業を進めてきた。

BCPマニュアルは、2月13日に総務委員会で協議し、3月16日の理事会で承認された。

今後は、BCPマニュアルの説明会（6月開催予定）を開催し、周知していく予定である。

なお、1年間に取り組んだ内容は次のとおり。

- BCPマニュアルの作成（事務局用・組合用）
- 防災ハンドブック作成 個人配布用（従業員）
- ポケットマニュアル作成（非常時対応メモ）
個人配布用（従業員）
- 緊急ダイヤルマップ（改訂版）の作成
- 災害連絡網の整備（セコム安否確認サービス）
- 緊急備蓄品の購入（備蓄品リストの作成）
- 組合員へのBCP策定支援等

日医工山梨グループが2連覇

ソフトボール大会 2位はチームマルモ



優勝した(株)日医工山梨グループ

平成28年度流通センターソフトボール大会が昨年10月23日（日）に釜無川スポーツ公園グラウンドで行われた。

参加チームは12チームで4グループに分けてリーグ戦を行い、勝ち残った4チームが準決勝、決勝へ進んだ。

勝ち上がったのは、マコト医科精機(株)、(株)日医工

山梨グループ（(株)日医工山梨）、むろい(株)、チームマルモ（(株)マルモ）の4チーム。

決勝戦は、27年度優勝の(株)日医工山梨グループとチームマルモの戦いになり、10対3で(株)日医工山梨グループが2年連続優勝を果たした。2位はチームマルモ、3位はマコト医科精機(株)、4位はむろい(株)という結果であった。



準優勝したチームマルモ

事前の準備に万全期せ

社員研修会で伊藤講師強調 冒頭とエンディングが重要

昨年9月27日（火）、中央市商工会・当組合協賛の社員研修会「営業マン必見！提案プレゼン力向上セミナー」が流通会館で開かれ、44人が参加した。

講師は㈱ナレッジステーション代表取締役・伊藤誠一郎氏。伊藤氏はプレゼンテーションを成功させるためには、事前準備が極めて大切で、ストーリー設計に4割、資料作成に2割、事前練習に3割、そして本番の発表に1割の力配分で行うと良いと述べ、特に事前練習は本番の3倍する必要があると話された。

そして「プレゼンテーションの勝負は冒頭とエンディングで7割決まってしまう」と指摘し、それほど冒頭とエンディングが重要なにもかかわらず、95%近くの方は前置きなく一方的なプレゼンテーションをしていると述べた。勝負に勝つためには、冒頭にテーマ、結論、目的、論点の前置きをしてから始めることが重要だと指摘し、前置きの方法について解説された。

今回の講座は、講師による模擬プレゼンテーションがあったり、経験豊富な講師の体験談を交えたりと、実践的な内容で進められ、「中身の濃い有意義

な講演だった」「普段の営業中でのお客様の提案にも活用していきたい」との声が寄せられた。プレゼンテーションを論理的に成立させるためには、話をしていく中で適度な疑問（投げかけ）を作りながら、その疑問を打ち消すように理由を説明していく必要があるそうだ。今回学んだ顧客の信頼を獲得する伝え方を今後の営業活動に活かしてもらいたい。



モチベーションアップへ新人研修

19人、組織人としての基本学ぶ

新入社員フォローアップ研修が昨年10月4日（火）、5日（水）の両日、流通会館大会議室で開かれ、9社から19人が参加した。

講師は4月の新入社員研修に続き、コミュニケーション・アカデミーの鬼塚啓介先生。今回は、自己の振り返りを中心に組織人としての基本行動やビジネスマナーの再チェック、問題解決の方法等を学び、レベルアップと今後のモチベーションアップを図ることを目的に行われた。

スピーチ実習やグループ討論、訪問マナーのロールプレイングを実施する等、実践的な研修となった。今回学んだことは社会人の基礎となるので、忘れずに活かしてもらいたい。



商工中金から感謝状拝受

本組合 永年の努力報われる

昨年、12月10日、商工中金から山梨県流通センターに感謝状が贈られた。

これは、商工中金の創立80周年を記念したもので、当組合が永年にわたり地域や中小企業の発展に尽力していることが評価されたものである。



団体は中央物産が優勝

北ブロックボウリング大会 個人は小林完さん（マルモ） 1 位

北ブロック懇談会の第9回ボウリング大会が、昨年11月25日（金）、ダイトースターレーン双葉で行われた。今回は7社から22チーム、計86人が参加した。

団体の部は中央物産(株)Aが2ゲームトータルスコア1194で優勝し、個人の部は小林完さん（株マルモ）が2ゲームトータル383で優勝した。



優勝した中央物産Aチーム

団体の部（2ゲームトータル）

※敬称略

順位	チーム	メンバー	スコア
優勝	中央物産 A	保坂(吉)、保坂(彰)、小林、村松	1194
準優勝	マルモ A	穂山、神田、廣瀬、小林	1145
3 位	マコト医科精機 A	堀内、加賀美、斉藤、古屋	1069

個人の部（2ゲームトータル）

順位	氏 名	会社名	スコア
優勝	小林 完	(株) マ ル モ	383
準優勝	保 坂 吉 彦	中 央 物 産 (株)	368
3 位	小 林 賢	(株) 甲 府 情 報 シ ス テ ム	305



個人の部優勝の小林完さん

時代の変化への対応策探る

静岡商工会議所・卸商業部会が来訪 地域密着の街づくりで意見交換

昨年11月22日（火）、静岡商工会議所・卸商業部会の会員が山梨県流通センター事務局に来局した。一行は部会長 神野一成・東海澱粉(株)相談役、以下3名の方々と、各地に中小企業育成のために商業流通団地が形成されたが、流通業の機能が大きく変貌を遂げ、従来のように倉庫を持ち自家配送を行う必要が薄れて来ている現状があるため、時代の変化に上手に対応し、地域に密着した新たな街づくりについて意見交換の申し入れがあり今回の来局となった。

栗山理事長、細田副理事長以下事務局員が一行を出迎え、流通会館内を見学した後、役員室で当組合の概要説明を行い、予定した課題については質問に答える形で議論が行われた。予定していた1時間は瞬く間に過ぎ当組合での日程を終了した。



従業員323人が予防接種

インフルエンザ流行に備えて

インフルエンザの流行に備えて、昨年11月8日（火）、9日（水）、10日（木）の3日間、組合員・準組合員の従業員とその家族を対象にインフルエンザ予防接種を行った。

昨年度に続き2回目の実施となったが、昨年度の申込み人数を大きく超える323人（昨年107人）の申し込みがあった。



組合員変更事項

組合員名	変更前	変更後
㈱日本アクセス東京西支店 甲府物流センター	センター長 望月 智通	センター長 太田 宏和

当組合は、12月11日に行われた第9回中央市社会福祉大会で、山梨県共同募金会会長から大口募金者として感謝状を贈呈されました。

『事務局日誌』 ～10、11、12、1、2月の主な会議等～

- ◆10月
- 2日 青年部LoMAの会ゴルフコンペ
- 3日 研修・厚生委員会、ソフトボール大会主将会議
- 4日 赤い羽根共同募金にバザー売上金贈呈
- 4日 正副理事長会議
- 4～5日 新入社員フォローアップセミナー
- 5日 生活改善委員会
- 6～8日 未来検討特別委員会先進団地視察(鹿児島、福岡)
- 11日 事務局消防訓練
- 12日 組合BCPマニュアル策定事業
- 12日 リサイクル・一斉清掃
- 13日 認定職業訓練「CAD」(10/27まで)
- 17日 北ブロック懇談会
- 19～20日 全国中小企業団体中央会全国大会
- 26日 生活改善委員会ページ作製会議
- 27～29日 未来検討特別委員会先進団地視察(盛岡、青森)
- ◆11月
- 1日 正副理事長会議
- 2日 組合BCPマニュアル策定事業
- 2日 社員交流会運営委員会
- 8日 生活改善委員会
- 8～10日 インフルエンザ予防接種
- 10～13日 青年部LoMAの会海外研修
- 11日 認定職業訓練監査
- 14日 リサイクル・一斉清掃
- 15日 社員交流会運営委員会
- 17日 組合BCPマニュアル策定事業
- 19～20日 フォークリフト講習会
- 22日 静岡商工会議所来局
- 25日 北ブロックボウリング大会
- 26～27日 フォークリフト講習会
- 30日 組合BCPマニュアル策定事業
- ◆12月
- 1日 社員交流会運営委員会
- 2日 正副理事長会議
- 2日 北ブロック懇談会
- 6日 生活改善委員会
- 7日 東ブロック懇談会
- 9日 社員交流会
- 11日 中央市社会福祉大会
- 12日 リサイクル・一斉清掃
- 13日 理事会
- 16日 南ブロック懇談会
- 22日 組合BCPマニュアル策定事業
- 30日 事務局仕事納め
- ◆1月
- 5日 事務局仕事始め
- 6日 新年互礼会
- 6日 正副理事長会議
- 12日 リサイクル・一斉清掃
- 16日 組合BCPマニュアル策定事業
- 17日 生活改善委員会
- 20日 理事会、役員新年会
- 23日 青年部LoMAの会新年会
- 24日 次期役員推薦委員会
- 24日 社員交流会反省会
- 27日 西部会・西ブロック懇談会
- ◆2月
- 1日 脳ドック・肺CT健診開始(2月中)
- 6日 組合BCPマニュアル策定事業
- 7日 正副理事長会議
- 9日 未来検討特別委員会
- 13日 リサイクル一斉清掃
- 13日 総務委員会
- 14日 生活改善委員会
- 17日 北部会
- 20日 定例懇談会
- 21日 東部会・東ブロック懇談会
- 22日 中小企業組合等事務連絡協議会
- 22～23日 乳がん検診
- 24日 LoMAの会定例会

かいがね

昨年一年間「日本近代史講座」を受講した。明治維新から昭和までの歴史を勉強し、改めて平和について考えたいと思ったからだ。と言うのも私は学校の授業で昭和の歴史をきちんと勉強した記憶がない。そしてこれは受講者全員に共通することでもあった。何故なのか。元高校の日本史教師だった講師に聞いてみた。当然だろうが、行政が教育現場に対してそういう指導をしていた訳ではないそうだと。言えるのは、教師自身にその時代を教える自信がなかった。更には、政治的に微妙な問題を含むことが多いため教えることを避けていた傾向があるのではないかと言うことだった。

しかしそれで良いのだろうか。1931年の満州事変に始まり1945年に破滅的な終焉となった15年戦争の歴史を日本人は知らないで良いとは思えない。あの戦争の時代に日本人は3～4百万人の尊い人命を失ったが一方で日本が中国、韓国をはじめアジア諸国に強いた犠牲は2千万人に及ぶとされる。この歴史の事実を理解しそれを伝えていくことが日本人の責務なのではないか、と私は思う。

ドイツはあのナチスの時代の残虐な行為を反省し、教育の場でその歴史を徹底して教えている。だが、日本人の中には昭和16年12月8日がどういう日なのか、昭和20年8月15日が何の日なのかさえ知らない人が少なくない。まして、事実上の戦争の幕開けとなった満州事変が何故始まったのかは私自身も理解不十分と言えた。ナチスが行ったアウシュビッツの惨劇が象徴するユダヤ人への迫害は書物や映画などで知ることはあるが、日本軍が行った民間人数万の死者を出した南京虐殺が事実として教科書に書かれてはいても反省されることはほとんどなく、あろうことかそれを否定する言論も散見される。

こうした状況が、潜在するアジア蔑視の風潮や問題となったヘイトスピーチの背景にもなっているような気がする。ヘイトスピーチには既に規制法が成立し、自治体の中には条例を制定しているところもある。憎しみから平和は生まれない。兵器は平和を創造する道具とはなり得ない。だが、世界では有史以来戦争が止んだことはなく兵器は進化して人類の全てを殺し尽してもなお余りあるほどの核兵器が存在している。

今年の夏、アメリカのオバマ大統領は被爆地広島を訪れ核のない世界を標榜する演説を行った。しかし先頃、国連に提案された核兵器禁止条約に対してアメリカなどの核保有国は反対し、唯一の被爆国である日本もそれに同調した。

平和を言葉でいうのはやさしい。時には平和を叫びながら戦争に進むこともある。だからこそ平和を守り実現するための行動を起こすことはやさしくない。とは言え、私たちの子供や孫の時代も長く平和であってほしいと心から願っているし、それが今を生きる我々の役割であろうと思うのである。(M)